宮代町立小中学校の適正配置及び通学区域の編成等に関する審議会の
第３回会議録

１　日時・場所

令和元年１１月２７日（水）１９：００～２０：５５

役場庁舎　２０２会議室

２　出席者

審議会委員：１８名出席

濱本会長、佐藤副会長、軽部委員、杉村委員、池田委員、大和田委員、上野委員、矢戸委員、金子委員、小澤委員、山内委員、鶴見委員、山口委員、篭宮委員、小林委員、松本委員、宍戸委員、菊地委員

事務局：中村教育長

教育推進課：大場課長、加藤主査、三反崎主事

３　開会

４　挨拶

教育長及び濱本会長から挨拶

５　前回審議会について

濱本会長：前回審議会における方向性等について確認したいと思います。事務局から報告願います。

大場課長：前回の審議会については既に会議録等で御確認いただいていると思いますが、欠席された委員もいらっしゃいますので、報告します。前回の審議会は、９月１９日木曜日午後７時から開催し、「小中学校の適正規模について」審議しました。様々な意見交換があり、全員賛成というわけではなかったと思いますが、審議会としては、小中学校の適正規模は、現在の適正配置計画等が定める「小中学校の適正規模を１２～１８学級とする」という方向性は妥当であるとの検証結果になりました。

加藤主査：前回、金子委員から御質問いただきました、現在の百間中学校において、どの程度の学級編成ができるかという点について調査しましたので、お答えいたします。

金子委員：百間中だけでなく、全体としてどの程度のキャパがあるかという点で確認したいのですが。

加藤主査：わかりました。今回回答する教室の数については、普通学級と特別支援学級を含めた学級数ということになります。須賀小は学級数が 14、未使用が 10 です。合わせて 24 教室あります。百間小は学級数が 15、未使用が 8 です。合わせて 23 教室になります。東小は学級数が 12、未使用が 2 教室です。 合計 14 教室です。笠原小は学級数が 16、未使用が 5 教室。合計 21 教室です。須賀中は学級数が 8、未使用が 6 教室。合計 14 教室です。百間中は学級

数が 11、未使用が 5 教室。合計 16 教室です。前原中は学級数が 7、未使用が 11 教室。合計 18 教室です。

濱本会長：未使用の教室というのは全く使っていない教室ということでしょうか。

加藤主査：転用されている教室で今後普通教室になりえる教室です。特別教室と学校に必要な教室を除いたもので、会議室など本来の用途に使っていない教室を未使用としてカウントしました。

５　検討事項

現行計画等の検証に関する今回のテーマ「適正配置計画等に位置付けられた学校数の検証について－通学に関する状況等－について」資料に基づき、事務局から説明後、意見交換を行った。

濱本会長：ただいま説明ありましたとおり、通学に関する状況等をテーマに検討をお願いします。適正配置計画にあるとおり、「中学校の配置は、極力中央部であることが望ましい」という観点と、「通学路の検証を行い、交通、防犯上の安全対策に努める」という観点から、事務局において実証実験を行った結果、そして、隣接する白岡市、杉戸町の状況も踏まえて検討をお願いします。

また、検討の視点としては、資料の３ページにありますとおり、

視点１として、通学距離及び通学時間の妥当性の範囲をどう考えるか。また通学手段についてどう考えるか。

視点２として、現状等も踏まえ、交通安全面及び防犯面についてどう考えるか。

視点３として、周辺の市町との状況も踏まえ、現行計画を実行した場合の通学についてどう考えるか。です。

金子委員：実証実験についてお伺いしたいのですが、実際に通学をして来るであろう北端及び南端で実施したのでしょうか。

大場課長：通学する児童生徒がいる可能性はあると考えています。

金子委員：宮東はイメージできるのですが、北端の久喜市境界付近も通学する可能性があるということでいいでしょうか。

大場課長：久喜市境界付近も市街化調整区域といって簡単に家を建てることができない区域ではあります。現状としても、それほど多くはありませんが、住宅がありますので、児童生徒が通学する可能性はあります。ただ、対象となる児童生徒が、数十人もいるか、というとそれはないと思います。

濱本会長：現実にあるという想定ですね。

大場課長：そうです。

金子委員：今回は、実験するに当たって町の中央部をどこにするかということで、笠原小にするか、役場にするかなど悩ましいところがあったと思うのですが、計画で 1 校にするといっている以上、想定している場所があるのではないでしょうか。

大場課長：計画策定当時には、場所の選定は行っていないと思います。しかし、町の中央部と言っている中で学校を建設するということになれば、それなりの面積を確保しないといけない状況

にはなります。その場合に考えられるのは、当然市街地の中ではまとまった面積の確保が難しいですから、町の中央部ある広い敷地ということになると、周辺の農地などまとまったエリアを考えていくことになるのではないかと思います。その場合、様々な許認可が必要にもなりますので、そうした点も踏まえることが必要になります。ただ、現時点では具体的な場所等について決定はしていません。今申し上げたのは、そういう方向性にしないと新しい中学校は建てられない、という逆算しての考え方になります。

金子委員：宮東では 4 キロ弱で、意識調査をみると許容範囲になると思いますが、国納地区の久喜市境界付近では 7 キロ弱で、それは許容範囲を超えているような気がします。そうなると、中学校の設置場所は、笠原小学校よりももっと北にしろという話になると思います。

大場課長：今回の実証実験では、笠原小としたのですが、他の目標とするものがなかったので、選定しました。やはり 6.87 キロということになると遠いとは思います。1 校ということになったとき、どの付近までなら許容できるのかというのは考えなければならない視点なのだろうと思います。

今回走行して思ったのは、その個人がどう感じるかという個人差があるとは思いますが、交通量などについては、危険を感じることはなかったです。ただ、冬の日没が早い時間などで帰りが遅くなったり、雨のときどう感じるかというのは、実際に検討をするとなったときに深く調べる必要があると思います。

菊地委員：問題は雨のとき実験するとどうなのか。冬になって部活やって帰ってくることを考えると無理だと思います。私は和戸ですが、和戸の交差点付近や踏み切り渋滞などもあり、交通量は多いです。いずれにしても雨のときの実験、帰るときの実験をどう考えるか。それと位置関係から考えると、消防署辺りが中央部になると思います。それと 1 校にするとしたとき、新しい場所に新しい 1 校を建てるのがどういうことなのでしょうか。予算の関係なら今のところを改修するということもあると思います。

大場課長：御成り街道などの状況もありましたが、今の中学生で、和戸交差点より北側の児童生徒は、何かしら御成街道を横断することになります。これは町の中央部に 1 校設置する、しないに関わらずそうなります。

雨の日の実験をどうするかというのは必要があれば行いますが、今回は通学距離、時間を計って客観的なものを提示したいとの趣旨で実施しました。実際に計画として実行する場合は、当然詳細な調査は必要だと思います。

また、新しい場所で、新しい学校をという話がどうして出てくるかということなのですが、現状として今の場所でどこか 1 校使うということになると、中学校で想定している人数や多機能化ということを考えると難しいという考えであります。新設するというのが現在の計画で位置付けられているということです。

鶴見委員：今の話は、中学校が完全に 1 校になるという話になっていると思いますが、どうなのでしょうか。

大場課長：今回の議論については、今の計画の検証ということになっているので、1 校というのが妥

当なのかどうなのか、という点の検証を行っているものです。その検証のための材料として、今回は通学に関する状況から検証をお願いしているもので、審議会として中学校を1校とするという方向性を確認したものではありません。今後もいくつかの検討課題について議論して、審議会として最終的に、現行計画に定められた学校数が妥当かどうかの方向性を示していただきたいと思っています。

鶴見委員：通学のことを検討する前に、中学校を1校にするのか、2校にするのか、3校にするのかという議論があってもいいのではないかと感じているのですが、それは必要ないのですか。

金子委員：何に基づいて議論するのですか。

鶴見委員：子ども達の通学のことや部活のことで、2 校にすれば、どうなるのか、など、そういう議論も必要なのではないでしょうか。

濱本会長：とても大切なお話をしてくださいました。ただ、検討のポイントは絞らないといけないですから、今回は、通学の視点から審議会として意見交換したいという趣旨になっています。現在の町の計画では1校となっていますが、審議会としては、まだその点については検証中で、決まっていないということです。

松本委員：他の市町の状況で、白岡市に大山小学校がありますが、資料をみると58人になっています。これはどの地区でどんな環境にあるのか教えてください。それとスクールバスを運用しているようですが、どんな運用を行っているのか教えてください。もちろん白岡市と宮代町を並べて比べることはできないのはわかっているのですが、こうした中でも白岡市は適正配置の検討が実施されていないようなので、情報として知りたいと思います。

大場課長：大山小学校のエリアは、完全に合致するかは分かりませんが、白岡市の西側のエリア、別添２で言うとピンクに色塗りされた国道122号線が地図上にあるエリアだと思います。大山小学校の付近については、工業団地はありますが、住宅が密集している市街地ではなくいわゆる農村集落的なエリアだと思います。また、ホームページ等によると複式学級の可能性があった中、白岡市の市費で教員を採用し、各学年1学級として学校運営を行っているようです。大山小学校の児童が中学に進学するときは、白岡中学校に通うことになりますが、中学校に通う手段としてスクールバスを運行しています。事務局でも大山小学校のエリアに足を運びましたが、国道122号線や県道さいたま栗橋線にかなりの交通量があるということと、白岡市は自転車通学が認められていないというところがあるので、スクールバスが運行されているのではないかと思います。さらに、大山小学校のエリアは、付近に鉄道の駅もないということもあるので、電車を使っての通学も難しいと思います。そういうこともありスクールバスを選択していると思います。

スクールバスについては白岡市が事業者に委託していると思います。それと予算書を確認したところ、これが全てスクールバスの運行経費かどうか分かりませんが、18,000千円くらいの経費だったと思います。このバスを使っているのが35人くらいだとお聞きしました。

白岡市の担当者にお聞きしたところ、適正配置の検討はしていないとのことでしたが、それは現時点でのことで、将来的にも検討しないと言っているわけではないと認識しています。

小林委員：スクールバスの運行に関してお聞きしたいのですが、通学時はいくつかの拠点を通って生徒を乗せていけばいいと思うのですが、帰宅時については、部活動もありますし、委員会活動もあります。帰宅はまちまちになります。そうした中でスクールバスがどのように運用されているのかという点があります。もしスクールバスが使えるのであれば、それこそ通学面の安全面と距離的な問題は解決されるのですが、実際問題中学校でそれが可能なのかどうか、特に下校時の運用ができるのかどうかという点だと思います。

大場課長：スクールバスのバス停までは、自宅から徒歩で向かいます。それが何箇所か設けられていているようです。朝 2 便、下校時に 2 便あると聞いています。帰りについては、先生の御指摘のとおり、部活の「あるなし」があるので、それに合わせて運行していると白岡市から聞きました。

宍戸委員：宮代町は、鉄道が縦断していますが、鉄道を使うという選択肢はないのでしょうか。

濱本会長：鉄道を使うというのも今後の検討材料になるかもしれませんね。

大場課長：当町において学校の適正配置を実施した結果、例えば、通学距離が遠距離になり、通学時の安全性を確保するために、スクールバス等の運行など、徒歩、自転車以外の通学方法を実施する必要が生じた場合には、客観的な印象として、宮代町の地理的条件からいけば鉄道利用は検討対象になると私は思っています。

松本委員：宮代町の自由選択性の中で、鉄道を使っている人もいますね。

濱本会長：実際にいるのですね。

大場課長：例えば、笠原小学校に通いたいので、鉄道を利用している人もいます。

宍戸委員：費用面もありますね。

金子委員：スクールバスの場合、先ほどの例でいくと一人年間 50 万くらいかかっていますね。それと定期代を補助するのとどちらが安いかということではないでしょうか。

宍戸委員：スクールバスだと無料なのでしょうか。

金子委員：経費はそれなりにかかるわけで、その経費を定期代の補助に回せば同じくらいの支出になるかもしれません。それなら鉄道を使うという選択肢もあると思いますし、予算上の措置も十分に検討できると思います。

濱本会長：あくまで仮での距離ですが、約 7 キロというのは保護者の方からどう思いますか。

上野委員：7 キロは子供がかわいそうだと思います。

金子委員：保護者でもありますが、自分の経験で言うと、通学する高校まで 5 キロくらいを自転車で通学していました。でも 10 キロは厳しいし、7 キロも遠いと思います。

松本委員：宮代町から伊奈学園まで通っている人がいましたが、厳しいでしょうね。1 校というなら、やはり消防署の辺りに建設するというのが現実的ではないでしょうか。

佐藤副会長：地図を見ると確かに久喜市境界付近から笠原小学校付近まで通うとなるとかなり距離があるなと思います。今の自転車通学の現状はどうなのでしょう。私は百間中に自転車で通っていましたが、県道は通ってはダメなど、ルールがあったと思います。実態はどうなのでしょうか。また実験するときに県道を通っているようですが、その辺の考えはどうなのでしょ

うか。

大場課長：今回の実証実験では、国納地区では朝 7 時、宮東地区では 7 時 55 分と、通学時間としては、もしかして、国納地区では早すぎて、宮東地区では遅すぎたかもしれません。そのため、実験の際には、通学している生徒の姿は少なかったです。ただ、私の経験からしても交通量の多い経路は、通学時には避けていると思います。

今回、御成街道と春日部久喜線の和戸交差点付近を通行したのは、そこの交通量を確認したいと思ったからです。須賀中の生徒は通学時には、通っていないのかなと思います。

佐藤副会長：いずれにしても、子供たちの安全面、防犯面の担保が最優先されると思います。それが担保できないなら、スクールバスや鉄道を利用するとか、場合によっては町の循環バスを活用するということもあると思います。本当に通学が難しいなら、そういう多様な交通手段ということも考える必要があると思います。

菊地委員：前回、目指すべき学校規模を題目として検討し、一番大切なものがそれなので、それを第一優先でやるという前提で、通学について検討するという順番になっていますが、例えば、6.8 キロを通うとなると、スクールバスを運行しても障害が大きいと思います。そういうことと学級数のどっちを重く見るかという話になってしまいます。いろいろな面を総合的に考えないと中学校を 1 校にするという方向性は疑問です。

それと先日の台風で避難勧告がありました。和戸地区の場合はぐるる宮代なのですが、古利根川の近くなので、危険もあると思います。須賀小中は、そういう点も違いますし、防災の拠点としての機能もあるので、そういう要素も加味すべきだと思います。

そういう点についてはどう考えるのかということだと思います。

鶴見委員：３．１１のときも東武線全ての電車が止まりました。和戸の駅にも電車が止まっていたのですが、幸いにも中学校が駅から近いということもあり、乗客の方が学校で一晩避難したという経緯もあります。

また、今回の実験では、踏切を渡っていますが、この経路で行くと踏切を渡らないといけないのですか。

大場課長：地下道もありますが、今回は仮の目的地である笠原小学校に向かうルートとして東粂原の交差点に向かうため踏切を渡りました。そこでの状況は把握できました。

鶴見委員：地下道ができた経緯というのは、踏切を通るのが危ないからなんです。自転車通学であったとしても、踏切を渡る状態に戻すのはどうかと思います。

さきほど、学校数の検討について意見がありましたが、1 校にするのか 2 校にするのかという観点から私も先ほどの意見と同じ意見です。

濱本会長：学校数については、最終的に皆さんの意見を踏まえて取りまとめることでいいですよね。

大場課長：そうです。今日、この時点で、中学校を 1 校にするかどうするか決める場ではないと思っています。1 校という計画がある中で、これを実行しようとしたとき、大丈夫なのかどうかという点を検証するために、通学の状況について検討をお願いしています。通学を考えるに当たっては、「これくらいの通学距離じゃないと難しい」などといった観点から議論していた

だく必要があると思います。

濱本会長：これまでの意見を聞くと、7 キロ弱というのは距離が遠いということだろうと思います。そこを考えてほしいということだと思います。

矢戸委員：我々親の立場から行くと、一番検討が必要なのは、視点２の方だと思います。安全第一なので、そこを考えていかないと話が始まっていかないと思っています。先ほども小林先生が言われたとおり、朝の挨拶運動をしていると、子供たちの登校時間がまちまちなのがわかります。まちまちなため、朝の 7 時から立って、8 時半くらいまで立っているわけです。そう考えると、部活などを考えるとスクールバスを運行させるのは難しいかなと思ったのが第一印象です。そうなると全員自転車だよねとなったとき、やっぱり安全面をクリアしないと、通行手段のその先の話が出てこないというのが、私が感じたところです。

濱本会長：通学距離についてはやはりあまり長いと困るということだと思うので、その辺は考慮してほしいというのが視点１の方向性でしょうか。

金子委員：ある程度具体的な距離も必要ではないでしょうか。

濱本会長：国の基準では 6 キロということになっていますが。

菊地委員：3 キロくらいではないでしょうか。

金子委員：意識調査では、4 キロくらいまでは許容されているように感じます。

宍戸委員：宮代町は自由選択ができるので、宮代台のほうから前原中学校に通っていた例もあります。かなりの距離だと思います。部活でどうしてもということでした。やはり朝は朝日がまぶしく、帰りは夕日がまぶしかったということで、通学はたいへんだったようです。なので実際には通えるんだと思いますが、そこは部活がやりたいという意思があってこそ乗り越えられたんだと思います。

菊地委員：中学校 2 校として考えると、通学区域を変えることで、人数も調整できるのではないでしょうか。キロ数も 3 キロくらいでいけると思いますが。

大場課長：通学区域を変えるということはできなくはないと思いますが、宮代町は自由選択制ですので、例えば部活動の関係で学校を選択したり、他の理由で選択するということもできます。

菊地委員：学園台や河原橋付近は、昔は須賀村ですから、微調整でできる気がしますが。

金子委員：今の時代の中でも、百間村、須賀村という話ですか。

菊地委員：そうではないですが。

濱本会長：その話を掘り下げるのはやめましょう。視点２の安全性の話をしたいのですが。

上野委員：通学手段について考えるときに、今出ているのが自転車、それからスクールバス、鉄道も使用できるということだったと思います。今まで大きな事故がないと言っていますが、自転車同士の事故など、何かしらのトラブルは、少しはあったと思います。そういうことがたまにあると、最後は大きな事故につながる可能性もあると思います。例えば自転車であれば６キロの距離を考えるとそういうところを考える必要があると思います。それとバスだと朝の登校時間が子供たちはバラバラですし、下校時についても同様なので、そこの部分をどうするか。そして鉄道だと遅延と費用の面その点がどうなっていくのかという点、そうした面を

クリアしてから通学手段としてどこまで可能なのかを考えていけばいいのではないかと思います。

濱本会長：自転車、バス、鉄道という話がありましたが、事務局としてはどうですか。

大場課長：中学校をここに設置しますというのが決まっていない中で、想定として笠原小というところをみて議論をお願いしていますが、今の段階でできる議論と、ある程度方向性が決まってからできる議論で分けて考える必要があると思っています。例えば、まだ中学校の数も決まってはない状況ではありますが、あまり通学距離が遠くなるのであれば、自転車通学は保護者としては厳しいということになると、次の考え方としてスクールバスや電車利用などの支援策を講ずるという話になります。

そのうえで、費用面、予算面の検討、また、その費用負担の問題など、詳細な検討になります。審議会で費用面などまで掘り下げるというのは、難しいと思います。

審議会としては、今の計画に無理があるのかないのか、無理があるなら「無理ですよ」ということになりますし、様々な手段を考えて１校として運営したほうが部活動も活発化し生徒同士の切磋琢磨につながるということで、安全性を考慮して、スクールバスなど何かしらの支援措置を講じてほしいという提案になれば、それに基づいて検討していくことになると思います。

もちろん、他の要素も踏まえて、そもそも１校じゃ無理ということになれば、現行計画の検証の中で、１校ではなくて、１校以外の方法をとりなさいというのが審議会の中での方向性になると思います。掘り下げられる部分は掘り下げたいのですが、どこまでできるかということだと思います。

菊地委員：今の須賀中の生徒は最大どのくらいなのですか。３キロですか。

鶴見委員：４キロくらいあると思います。

大場課長：その付近に現在児童生徒がいるかわかりませんが、我々が通った経路で３．５キロくらいでした。

鶴見委員：３．７キロくらいはあると思います。

菊地委員：それが２倍になるというのは相当だと思います。

大場課長：あくまで目的地を笠原小とした場合です。

金子委員：それを日本工業大学でみれば、距離は変わりますので、あくまでレギュレーションでしかないと思います。

菊地委員：それと菁莪中は１２６人、杉戸東中は１３１人なんですが、他の学校と比べると生徒数が少ないのですが、再編など何か動きはあるのですか。

大場課長：杉戸町は、どこの中学校か小学校かは分かりませんが、議論はしていきたいということは担当の方はおっしゃっていました。

菊地委員：白岡はなぜ議論しないかなと思うのですが。

大場課長：白岡については、今は、議論はないということで、将来的にどうかということは確認していません。

佐藤副会長：白岡の人に聞いたのは、白岡中をどこに設置するかという議論がかなり以前にあったようです。今、白岡中と篠津中が近いところにあるのですが、大山小の児童が中学に通うときは距離が遠くなるので、スクールバスになったとのことです。杉戸中にも知り合いがいたので聞いてみました。杉戸中は部活動が充実しているので、区域外や他の市から電車で通っている生徒もいると聞きました。通学の安全面には気をつける必要がありますが、やはり保護者は、それなりの規模を望んでいるのではないでしょうか。

金子委員：1 校にしたときに、自分の意思と関係なく長距離通学になるという点については課題なのだと思います。例えば、部活などの関係で遠距離になっても、それは意思を持って通っているわけでそこは問題ないんだと思います。そのための安全も自分で確保するのだと思います。その意思がない、要は今まで近かったのに遠くなってしまった。それを望んでいないという点が子供視点から考えるとネックになると思います。

ただ規模が小さいと部活ができない、先生の配置が難しい、教育の質が落ちるというデメリットもあるわけなので、最終的にどこを重視するかという点しかないと思います。

菊地委員：現状、須賀中が２０６人で、菁莪中は１２６人、杉戸東中は１３１人ですが、これはちょっと質的に違うと思います。須賀中はあと６年、７年くらいは２クラス編成が可能だとこの間の資料にあったように思います。

金子委員：６年も７年も先に議論をスタートしても、もう遅いということになりかねません。

菊地委員：杉戸町や白岡市は、少ない学校はどうするのかなと少し疑問に思ったものですから。宮代町だけ適正配置の議論をしているわけですが、どうなのかなと。

金子委員：他の自治体がどうかということではなく、宮代町は宮代町として考えないといけないのだと思います。他がどうだからということが関係あるのでしょうか。

菊地委員：そこに何か分からない問題があるのではないかと思ったものですから。

宍戸委員：中学校に実際に行ってみると分かると思いますが、本当に先生の数が少ないです。私たちの世代のイメージから考えると活気がない気がします。生徒も少ないし、特に先生が少ないと思います。そのおかげで部活動も減り、子供の選択肢も減っているという状況だと思います。子供にとって先生に認められたりすると学習意欲もわきます。私たちは、子供が様々な先生と関われるような機会を作ってあげないといけないと思います。通学さえ何とかなれば、子供たちを集めて、先生も集めて授業も活発に、そして部活も活発になると思います。そういう学校に親としては行かせてあげたいと思います。

小林委員：須賀中に今いますが、運動会などみんな元気にやっています。先生の数も少ないのですが。先生方もがんばっています。

それで、もし１校にするならば、距離感の問題は排除できないと思います。やはり通える状況ではないと実現は難しいだろうと思います。ただ、事務局からもありましたとおり、場所が決まっていないという状況であれば、条件としても通えるように町に中心部に設置するということが絶対条件ではないかと思います。現実の問題として、敷地があるかとか、許認可の問題もあるので、実現可能かどうか分かりませんが、通学距離の問題で考えると安全確保

が最優先であると思います。それは我々の議論でも配慮すべきだと思います。

濱本会長：皆さんの意見を聞いていると安全面の確保が優先ということだと思います。どこにどういう学校を作ろうと、町は、地域と連携して子供たちの安全を守っていただきたいということだと思います。それは、我々の一致した考えだと思います。

視点２は、そういう方向性でよいでしょうか。

一同：はい。

菊地委員：学校建設になると予算が巨大になると思いますが、いいんですか。

大場課長：まだ予算は考えていませんが、方向性が決まれば予算は考えていきます。

菊地委員：確保できるのですか。

松本委員：予算まで審議会で考えることでしょうか。

小林委員・金子委員：予算については、諮問事項ではないと思います。

小澤委員：私は任命書を受け取りました。ですのでこの審議会の委員として参加する意思を明確にしました。任命書を受け取った後、教育長から諮問がありました。諮問の内容は、町の現行計画の検証をしてほしいということだったと思います。その道筋に沿って検証をすることが私たち委員としての役割だと思います。もちろん、そこから外れたことを言ってはいけないということはないと思いますが、できるだけ諮問事項に沿った審議を行っていく必要があると思います。

私も、はっきり言えば、最初の公共施設マネジメント計画から問題があると思っています。蒸し返したいくらいです。私から言わせると、この計画は視点がずれています。でもそれを言ってしまうと、全てが蒸し返しになります。いろいろあると思いますが、任命書を受けた際の諮問事項の道筋に沿った議論をしていくべきだと思います。

全て蒸し返していると、また全てに反対していては、いつになっても結論が出ないのではないか、というのが私の意見です。

濱本会長：安全面については、子供の安全を第一に、関係機関も巻き込みながら進めていただきたいというのが審議会の方向性だと思います。そういう方向でよろしいでしょうか。

一同：はい。

濱本会長：視点１として仮に中心部として設定した笠原小学校では、久喜市境界付近からでは、距離が遠すぎるということでよいでしょうか。

金子委員：あくまでこの場所（笠原小学校）とした場合ということでいいですか。

濱本会長：そうです。この場所（笠原小学校）であればということです。そうなると場所の検討もしないといけませんし、子供たちが距離に負担がないようにしていただきたいということだと思います。

具体的にはどのくらいなのか。ということになりますが、６キロくらいですか。でも実際にどこからかというのは難しいので、保護者のアンケートを十分加味して考えてほしいということでしょうか。

金子委員：概ね５キロまでとかそういう形にしかならないと思います。

濱本会長：場所も分かりませんので、子供たちに負担にならないような距離感にしてほしいということでしょう。

鶴見委員：両端から３キロから４キロといったところでしょうか。保護者の意識の平均が３キロから４キロくらいのような気がします。

金子委員：最大でも、５キロくらいではないでしょうか。

濱本会長：保護者のアンケートみても最大は、５キロくらいですか。

鶴見委員：そうだと思います。

金子委員：７キロを許容する人はいないと思います。

濱本会長：子供たちに負担のないような距離感を持ってほしい。その上限として、概ね５キロが妥当ではないかと思いますが。

菊地委員：私は３．５キロくらいではないかと思います。今どのくらいなのですか。

大場課長：おそらくその程度だと思います。

菊地委員：３．５キロ以内とか４キロ弱とかそのくらいじゃないと。

松本委員：基本方針をみるとほぼ半径４キロで入ります。

小林委員：学校を中央部に持っていけばということですね。

金子委員：安全性を加味して半径４キロ以内、という方向性になるような気がします。走行距離ではないですけど。

菊地委員：半径４キロが限度だと思います。

小林委員：実際の距離は、５キロくらいにはなると思います。

鶴見委員：安全性を加味する必要があります。

金子委員：安全性を加味して半径４キロ以内なのでは。

鶴見委員：そうですね。

濱本会長：半径概ね４キロ以内でしょうか。実際には走行距離を考えると実質の距離は、５キロくらいになるかも知れませんが。

金子委員：ですので、半径という言い方でよいと思います。

松本委員：そうなると、半径概ね４キロの場合、自転車だと２０分くらいはかかりますね。

濱本会長：かつ安全面は十分に配慮する、ということだと思います。

濱本会長：その方向性で検討してほしいと思います。

視点３は、様々な意見が出ていると思いますが、何か確認することありますか。

松本委員：この資料の地図を白岡市や杉戸町に見ていただくと、宮代町は恵まれているなと思うと思います。杉戸の広島中学校は、かなり広い通学区域の範囲で、これだけで通学にはかなりの時間がかかると思います。現状として宮代町は恵まれていると思って、この資料をみています。

大場課長：広島中学校は、走行距離として５キロくらいが最も遠いエリアになると聞いています。

小澤委員：通学距離については、中学校に１校ということになれば、ほぼ中央部になるのは誰もが想像するところだと思います。その中で、久喜市境界付近の方は、遠くなるとすぐに分かると

思います。私の感覚だと、今ある須賀中学校付近からの通学なら町の中央部でも全く問題ないと思います。若いから君たちがんばれ、というのは簡単ですが、遠いエリアはやはり難しいと思います。その不安を取り除くために、できるだけの手当て、支援をするということがないといけないと思います。方策や支援策がない中でがんばれというのは、酷だと思います。

それと日本工業大学の裏側を通って須賀に行くルートがありますが、冬場の夜は暗いです。

鶴見委員：真っ暗ですね。

菊地委員：農地に落ちてしまうかもしれません。

金子委員：県道を通ったほうがいいかもしれないですね。

小澤委員：あそこを通学させるなら、街灯の設置は必要だと思います。もちろん教育委員会では約束できないでしょうけど、そういった方策も含めて検討する必要があると思います。

また、生徒は、先ほどもありましたとおり、雨でも雪でも通学しないといけません。毎日晴れているわけではない。雪が降ったとき徒歩で通える距離と全く不可能な距離では違うわけです。レアケースですが。

大場課長：御指摘はごもっともで、「学校をここに作ったから通学してよ」だけではダメだと思います。ただ、それでも、通学の負担軽減や安全性の確保などそれなりの支援策があれば許容されると考えていいのか、支援策は考えずに距離だけでみていくべきなのか、その辺のところの御意見をいただきたいと思います。

矢戸委員：ＰＴＡを中心に８年位前に通学路で危ないところの要望書を出したことがある。暗いので灯りを増やしてほしい、道路との境が分からないのでグリーンベルトを設置してほしいなどです。今回の計画のように例えば１校になって、裏道のようなところまで防犯の観点から灯りをつけてあげることができるのか、車が入ってこないように分かりやすい通学路にしてくれるのか、その辺が一番不安になっている部分があります。

以前、それをやってもらうため、委員会を立ち上げて、最終的にお願いをして、やっと整備してもらったという経緯がありました。

宮代町って基本的には暗い道が多いと思います。一番そこが引っかかるところです。

鶴見委員：それは私も感じます。道路整備も悪いですし、歩道がないところがほとんどだと思います。春日部久喜線の歩道は自転車がすれ違えるものではないです。一人がやっと歩けるくらいの歩道です。それくらいのものなのに、（通学上安全な）歩道が整備されていると解釈するのは違うと思います。

菊地委員：春日部久喜線と御成街道の交差点は歩道がないです。そこを通るのは非現実的だと思います。スクールバスを通すということであっても、万願寺橋通り線のところが渋滞しますし、電車の本数が多いので、踏切も詰まります。時間的にもスクールバスが通った場合、どのくらい時間がかかるか分かりません。自転車で通るのも危険だと思います。子供にとっては負担が多すぎると思います。

それよりも、次善の策で、クラスを増やす（通学区域を変える）方がいいと思います。

それと雪の日とか雨の日などは検証できるのでしょうか。

大場課長：そこまでする必要があるということならできますが。

濱本会長：子供たちにとって暗いとのことでしたので、一度見ておいたほうがいいと思います。

矢戸委員：学校が１校で場所がこの辺りですよと決まったときに、そういう委員会みたいのを立ち上げて、安全性の検証をやっていかないと安全対策や道路整備も進まないと思います。したがって、この審議会で、方向性が決まったときには、そういう安全性検証委員会のようなものを立ち上げ、よく道路状況等を調べるように提案したいと思います。

濱本会長：今後１校など、そういう形になった場合、今の御意見を生かすようにしてほしいと思いますね。

小澤委員：３校を１校にするというのは、地域にとってはさびしいと思います。でもメリットが理解されていないと思います。１校にするメリットが、すぐに思い浮かべることができるようにしないといけないと思います。３校を１校にすれば、明らかに遠くなります。この審議会でどこまでやるかというのはあるのでしょうが、１校にしてどういう中学校にするのかという青写真ができていれば理解しやすいかも知れません。

松本委員：メリットとしては、クラスが増え切磋琢磨する機会が得られる、部活動が活発化するなど、いくつかの点についてはこの審議会では共有化されていると思います。

金子委員：学校数について言えば、１校でも２校でも、必要な学級規模が確保できればいいんだと思います。もちろん子供の数が減っていく中で、学級の規模を確保していくことは、現実的でないことは分かっていますが。つまり学校数の問題ではなく、規模を確保すること大前提だと思います。

佐藤副会長：規模を確保するために、結果として学校数が決まってくるってことですね。

小澤委員：今まで少人数指導みたいなことは聞いたことがあったのですが、今回審議会資料を読んで規模を確保しないと教育効果が下がるんだということが始めて分かりました。だから、遠くてもがんばって来い、いい学校なんだから。という話になるのかなって思います。
いい学校作るからがんばってきてくれ、といえるかどうかだと思います。

菊地委員：そう。そこが大切だと思います。

濱本会長：今日は、様々な面で意見交換できたと思います。次回もよろしくお願いします。

４　次回日程

後日日程調整する。